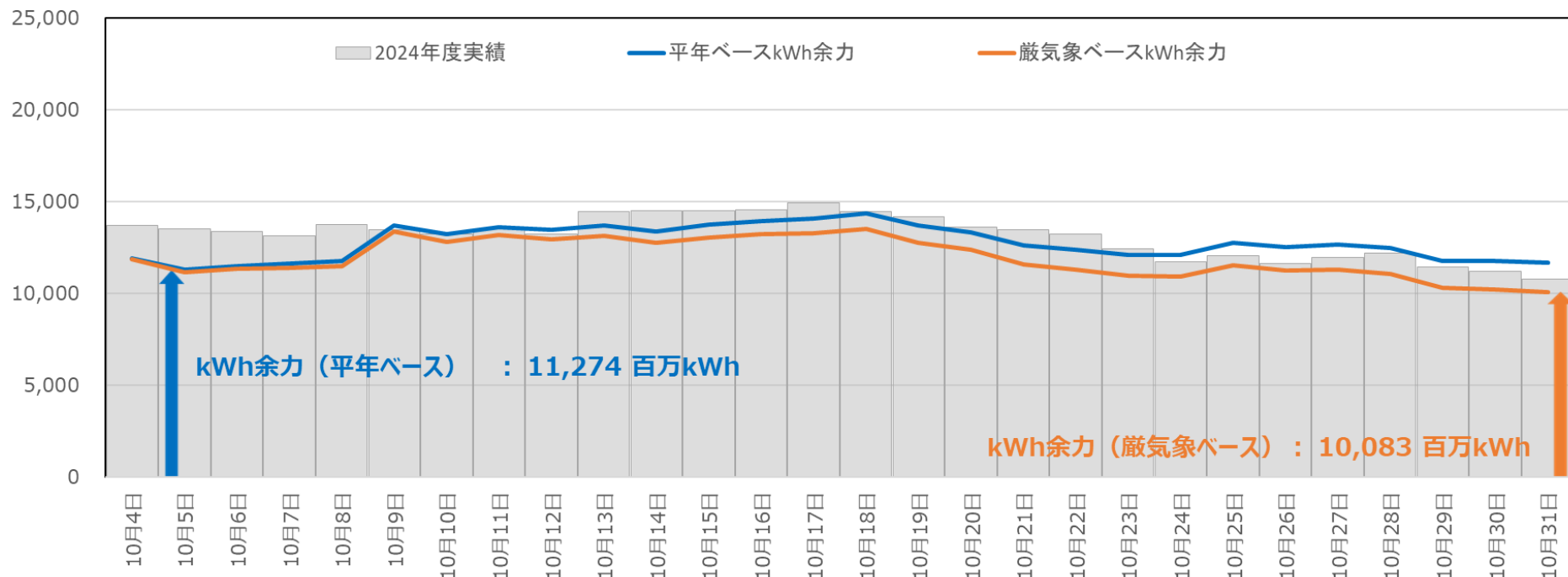


kWhモニタリング（対象期間:10/4～10/31）の結果

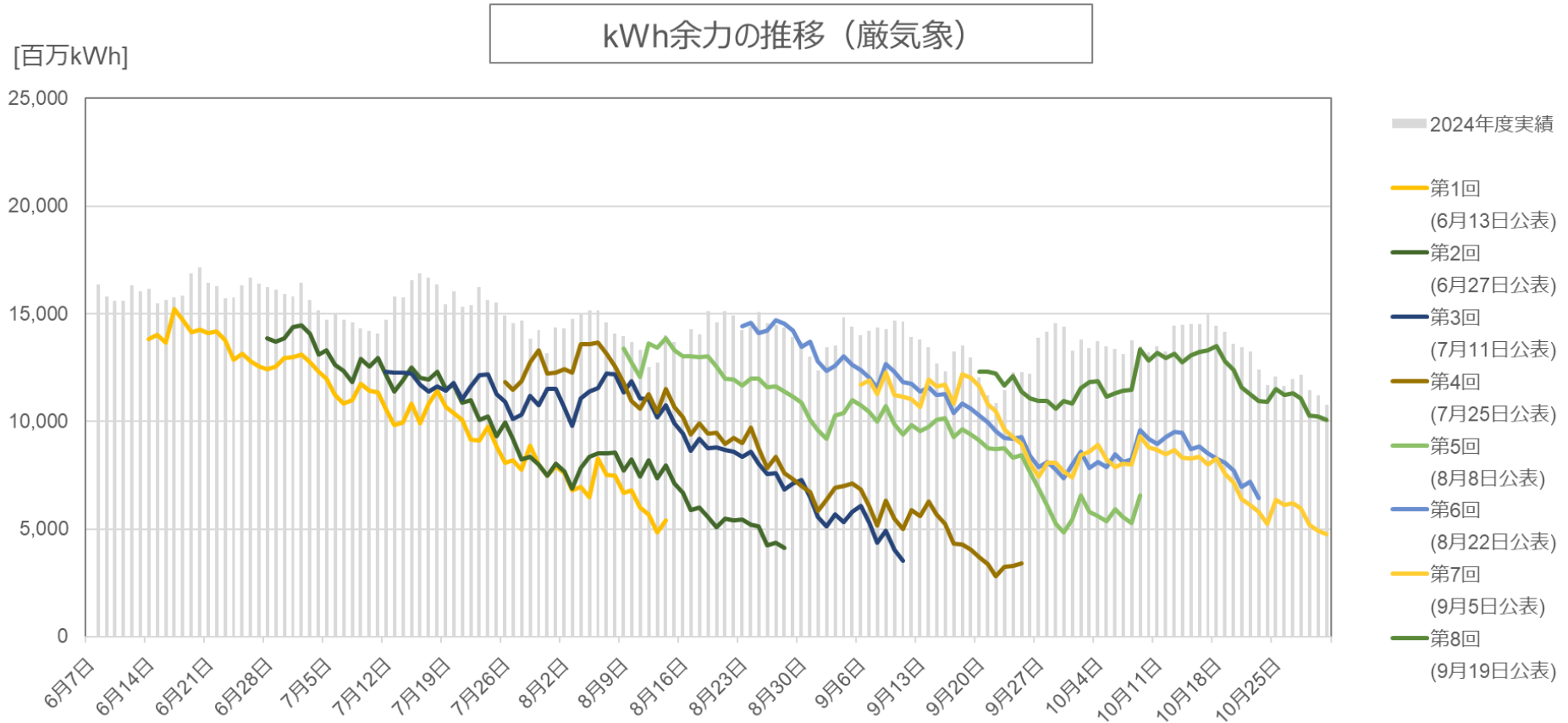
- 今後、平年並で需要が推移すると、kWh余力は10月5日に最小となる見込み。その値は **11,274百万kWh** であり、これは、対象期間の平均電力消費量の**約6日分**に相当。
- 厳気象ベースで需要が推移すると、kWh余力は、10月31日に**10,083百万kWh**となる見込み。これは、対象期間の平均電力消費量の**約5日分**に相当。
- 厳気象ベースでも10月末までのkWh余力が確保されていると判断したため、今夏のkWhモニタリングは終了する。
- 冬季にはモニタリングを再開し、引き続き確認を行っていく予定。

[百万kWh]



kWhモニタリングの結果（これまでの結果との比較）

- 前回（第7回）のkWh余力（厳気象ベース）と比較すると、一部事業者の燃料調達等の影響により、kWh余力は増加。



注：上記kWh余力の推移のうち、始めの2週間は気象予報を基にした需要を用いて算定したものであり、厳気象を想定した推移ではない